

# 昔は楽しかったの漫画の感想レビューに関するアンケート調査結果

## ■アンケート調査概要

調査目的	昔は楽しかったの漫画の感想レビューに関するアンケート調査
調査対象	昔は楽しかったを読んだことのある20代～40代の男女10名
調査期間	2025年1月16日～2025年1月19日
調査方法	インターネット調査
モニター提供元	クラウドワークス
データ使用サイト	<a href="https://glucks-web.co.jp/manga-zenkan/mukasihatanosikatta/">https://glucks-web.co.jp/manga-zenkan/mukahatanosikatta/</a>

## ■アンケート項目

Q1: 年代と性別を教えてください。

Q2: 昔は楽しかったの面白いところやいいところなどの感想を教えてください。

Q1: 年代と性別を教えてください。

回答	回答数
20代女性	1名
30代女性	1名
40代女性	2名
20代男性	1名
30代男性	3名
40代男性	2名

Q2: 昔は楽しかったの面白いところやいいところなどの感想を教えてください。

久しぶりに姉から電話が来たと思って特に気にもとめてなかったのに、お母さんだけが姉の異変に気付いた時

はすごいと思いました。ピンと来てすぐに姉の元に向かうゆうやが優しいと思いました、悪い予感が的中していた時は胸が苦しくなりました。明るく振る舞うも時々様子のおかしい姉にハラハラしたけど、ゆうやがさりげなくフォローしていて安心しました。

サンプルで読み、気になったので一気に読みました。シリアスな状況から、独特な雰囲気が変わっていき、姉弟の行為へと変わっていく今までに見たことがない漫画でした。セリフ自体も多くなく登場人物が何を考えているのかを自分で考察しながら読み進めていく必要があるため様々な見方ができ、2度目読むときはまた違った楽しみ方ができると思います。心を病んでしまった人間の今にも壊れそうな雰囲気を非常にうまく組み込んだ作品かと思いました。

なぜかスマホではなく固定電話に連絡してきた姉との何気ない会話と、母親と姉との会話から、社畜の姉が病んでいることに気づき、すぐさま飛行機に乗って姉のもとへ飛んでいく弟の原動力が、ただの家族愛や兄弟愛ではなく、幼い頃から抱き続けた報われることのない気持ちというのが切なかったです。ただ、姉も弟が自分に向ける眼差しが一般的なそれとは違うことには気づいていて、社畜に疲れた姉がもうどうにでもなれ、自分を欲しがる人のためにと弟に身体を差し出すところは、兄弟なのに切なさを感じる展開で、心は冷静なのに身体は反応してしまう弟のそれまでの思いの行き先が見つかったことに、求めていた形とは違っても報われたような満足感を感じました。

傷ついた人の心理描写を丁寧に描いている傑作だと感じました。現実にも多くの人が経験したことがあるようなリアルな心が壊れるような経験が描かれていて、とても共感できるし感情移入できる作品でした。

この作品のキャラデザインがめちゃくちゃ好きですね。どこか儚さというモノを漠然と感じられるので見ていて不思議な感覚になりました。姉と弟の絡みが展開されていくのですが弟の姉に対しての興味津々具合がとてもいいですね。寝ている姉をジロジロと眺めている姿になんだか笑えました。

姉の感じや弟のちょっとあどけない感じがいいバランスで描かれていてとても魅力を感じます。無防備にリクルートスーツでベッドに横になっている姉の姿が非常にいいですね。弟がそんな姉に近づいて行為を展開していく姿にハラハラ感が押し寄せました。

かわいらしいイラストで淡々と進んでいって、ですが意外と重い内容の作品でした。うつ状態のヤンデレ姉。そしてしっかりものの弟。きっとどこにでもいるような姉弟でしょう。でもだからこそ、リアリティがある。そんな二人のストーリー。好きだとかなんだでラブラブカップルがイチャイチャするだけのストーリーに飽きた方にはおすすめ。

鬱という重いテーマも加わっているため、より複雑なストーリーとなっています。こちらの作者さん、実際に周りにつつ病患者がいるのでしょうか。なんとも表現がリアルなんですよ。なんとも重たいストーリー。いろいろと考えさせられます。これもまた、一つの愛の形ということなのでしょうね。

「昔は楽しかった」というタイトルからは、単なる懐古的なストーリーを想像しましたが、読んでみるとそれ以上の深みがありました。物語全体が過去の幸福な時間と、そこから離れてしまった現在のギャップを丁寧に描き出しています。特に主人公の視点から見える日常の小さな違和感が、読者に「自分だったらどうするか」と問いかけてくるようで、とても考えさせられました。

シリアスな冒頭部分も印象的で、そこからの展開が感動的です。過去の思い出を愛おしく思う描写が多い中で、それを単なる逃避として扱わず、前を向くための糧にしていく姿が心に響きました。キャラクターたちの台詞は少なめですが、その分、絵や行動から伝わる感情の強さが際立っています。特にラストシーンでは、家族や仲間との絆の意味が改めて問われ、読後に余韻を残しました。

未来への希望を見出しつつも、過去を大切に思う感覚が共感を呼ぶ一作です。ぜひ、多くの方に読んでほしいと思います。

病んでしまった姉とそれを心配する弟が一線を越えてしまう・・・

文字にするとシンプルでストーリー自体もシンプルなのだが、かなり読ませる力量を感じさせる傑作。台詞や文字がかなり少なく、それが却って生々しさを感じさせる効果を生んでおり引き込まれる。極限の状態まで追い詰められているであろう姉(あえて何があったかは描いていないっぽい)が弟に差し出したものが自分の肉体と預金というものも泣ける。

# 漫画全巻の部屋

by (株)グリュックス

---